

# 一票の磔つなげて

●●28●●

炉の中でたいだいに光るアルミを型に流す。曇った合金が光沢放つ製品へ変わる瞬間、男たちのまなざしが熱を帯びた。旭鋳金工業社長、大林淳一さん(47)――横浜市。不況にあえぐ業界で、増産を頼みテレビカメラ移動台を発明した創意工夫の人だ。「政治は……」。考え込んだ顔組みを解くと一気に書いた。地獄を見た。『構造改革』を掲げ、小泉首相が熱狂で迎えられた4年

鋳物工場社長・大林淳一さん

前。「俺と同じと言っている」。細小が練く中小企業経営者には、同じ面を目標す同志のように映った。だが持っていたのは猛烈な憤しはがし。3カ月で1000万円の返済を迫られ、倒産の際まで追いつめられた。保険解約、早期アルバイトで食いつないだ。改革の痛みを解放したのは、自力で開発したテレビカメラ移動台だった。「小さな会社だけど政治に左右されない経営を

## 今度は自分で候補選ぶ

するしかない。俺がやるしかないんだよ」。運命を拓くのはこの美次男。だから、今回は業界の指示ではなく、自分で候補を決める。選挙カーの「最後のお願い」が遠くに聞こえた。【撮影行、写真も】



「やるのは俺か!!」。線で力強く描いた大林さんと妻美苗さん＝横浜市旭区の旭鋳金工業で